

入学当初から気になっていた。早稲田のプライドを体現したようなメタセコイアの木。避雷針代わりなのか、はたまたこの木の高さまで成長しろという訓戒か。ソテツに並び「生きた化石」と呼ばれるメタセコイアは「絶滅した後に再び発見された木」という意味の名前らしい。白亜紀から現れ、日本には1950年に渡来。それが緑あって早稲田大学戸山キャンパスに植わっている。メタセコイアは雌雄同株。日本では開花しないことも多いが、花言葉は「平和」「楽しい思い出」だという。短い学生生活に重ねると、ほろりと泣かされるではないか。そうか、早稲田で過ごした日々を「わ・す・れ・な・い・で」と6本立っているのか（嘘）。ちなみに若葉は食べてみると甘みがあり美味しいのだとか。きっとあの木は大隈公が愛した早稲田の味（たぶん）。「戸山の丘」横にある某有名チェーン店に「メタセコイア風味の早稲田限定フラペチーノ」を置いてほしいと思っているのは私だけではないはず。

column

なんとといっても、剪定後の美しさです。人工的に「切った」感じのするごつごつした剪定ではなく、春に芽吹いた後丸っぽく自然に葉が生い茂るよう、丁寧な剪定を心掛けています。

Q3

剪定はどのような
工程で
行いますか？

まず、命綱を太い枝に括り付けて、枝から1メートル50センチの範囲で動けるように固定します。その後上から、木が杉の形になるように剪定していきます。太い枝はのこぎり、細かい枝は剪定ばさみで切断しています。剪定にあたって最も注意している点は、切断面の形です。握りこぶしのように、切断した箇所がなだらかで丸くなるよう剪定しています。最終的に、春に葉が芽吹いた際、葉と葉の間に風が通るくらい隙間があり、なおかつ葉が自然に生い茂るよう剪定しています。

Q4

剪定にあたって
最も重要視
していることは？

メタセコイアの剪定は、なんとほとんど「手作業」でした。それも、ほとんどの場合ははしごと命綱を使った高所作業だそうです。つまり、「命がけ」というわけですね。いつもは何気なく見ているメタセコイアですが、お話を伺ってから改めて見ると、その美しさが際立った気がします。私たちの生活がさまざまな人の力で支えられていることを、改めて感じました。

マス研

ナイトスクープ

都の西北・早稲田大学には、不思議がいっぱい……。本企画では、早稲田大学に潜む謎を調査します！

お題は

「文キャンの

巨大な木の剪定」

です！

早稲田大学戸山キャンパスにある10メートルほどある大きな木。この木の正体は、スギ科メタセコイア属メタセコイア。巨大なこの木は、いったいどのように手入れされているのでしょうか……。今回はそんな疑問を調査してみました。

調査にあたって、さっそく文学部事務所に連絡。戸山キャンパスの管理をされている、株式会社城北造園の清水様にお話を伺いました！

メタセコイアの
剪定時期は
いつですか？

Q1

メタセコイアは「落葉樹」といって秋に葉が落ちる木なので、12月〜2月にかけての冬に剪定を行います。ちなみにツバキのような「常緑樹」は、葉が柔らかい春前の3月に剪定を行います。

折り畳み式ののこぎりを主に使用します。40センチほどですね。ほかには、剪定ばさみ、はしごですね。あとは、1メートル50センチほどの命綱。高所作業車を使用することもあります。基本的には、はしごを使った作業になります。

Q2

剪定にはどのような
道具を
使用しますか？